

「近づきたいね、暮らしと政治」をスローガンに、1990年に地域の女性たちが中心となり設立した市民の政治団体です。

江戸川・生活者ネットワーク

それゆけ!レポート Vol. 109 2016.8.20

発行:江戸川・生活者ネットワーク / 〒132-0033 江戸川区東小松川3-35-13-205 / 発行人:藤居 阿紀子 / 連絡先: ☎03-5607-5975

『二つの選挙を終えて』 政治を市民に取り戻す

市民連合
野党共闘

7月10日(日)、31日(日)がそれぞれ投開票の参議院議員選挙と東京都知事選挙が終わり、この夏、一カ月以上にわたる選挙戦において、安保法制廃止と立憲主義の回復を求める「市民連合」の連携による新たな参加型の取り組みが繰り広げられました。



「大河原まさこと市民のつどい」で応援する伊藤ひとみ

平和の実現をめざすことでした。全国比例選挙制度のわかりにくさと、候補者のほとんどが全国規模の労組や宗教団体がバックにある一方で、市民団体や生活者ネットワークにとつて、あまりにハードルが高い選挙だと痛感しました。結果は惨敗でした。

市民がリードした 都知事選挙戦

参院選の最中、真っ先に立候補を表明した小池百合子さんは、自民党の推薦問題で注目を集め、党推薦の増田寛也さんとの対立軸が鮮明になりました。選挙戦直前になり、野党共闘で一本化された鳥越俊太郎さんが立候補、事実上、三つ巴の選挙となりました。

元東京・生活者ネットワークの都議だった大河原まさこさんが、「生活の現場こそ政治課題がある。国政を生活者の視点で変えること、大事なことは市民が決める地域主権を確立する」と、今回初めて全国比例で立候補しました。東京ネットも一員である全国市民政治ネットワークや市民団体が、国政に「市民の議席を!」と、全国で市民としての選挙戦を展開しました。

掲げた争点は、安倍政治の暴走をストップ!立憲主義を守り、軍事によらない



超党派で支持を訴える街宣(中央:本西みつえ)

東京五輪

カヌー・スラローム会場、来年度に工事開始

— 臨海町6丁目(葛西臨海公園隣接地)の建設計画概要 —



都立葛西臨海公園の3分の1をつぶすような建設計画だった、2020年東京オリンピックのカヌー・スラローム会場。市民や環境保護団体などの大きな反対により、建設地の変更が昨年2月に正式に決定されました。新たな建設地は臨海町6丁目。公園と荒川河口の間に位置する東京都下水道局所有の土地です。葛西臨海公園の多様な生態系がブルドーザーによって直接破壊されることは免れましたが、隣接地での大掛かりな競技場建設が来年度には始まります。

カヌー・スラローム競技とは カヌー・スラロームは、激流の河川をカヌーで下るスポーツですが、競技では一定の区間を上から吊り下げられたゲートを通りながらゴールするまでの時間を競います。72年のミュンヘンオリンピックで追加された種目ですが、その後は実施されず、92年のバルセロナから毎回の競技種目となっています。自然の河川では天候によって水量が変化してしまうので、オリンピックではポンプアップして水を流す人工的な競技場建設が前提となっています。



施設整備概要は?

公開された資料では、今年度中に実施設計を委託し、2017年には工事着工、完成は19年となっています。建設予算は招致時に示された24億円が3倍

の73億円に変更されています。この土地が埋め立て地で軟弱地盤であることは最初から分かっていたはずで、地盤改良などの基礎工事を計算に入れず、上物建設費のみで招致時の予算を立てていることに問題があるのです。



スラローム競技場は、大掛かりな水中ポンプや水質維持のためのろ過装置を必要とする大きな流れるプールであり、大会後も恒久施設として利用される計画です。後利用については、国際・国内競技大会の開催はもとより、都民のレジャー施設として、競技コースではラフティングなど、フィニッシュプールでは、人が入れるバルーンなどを浮かべ、子どもたちが遊べるような水上リクリエーションを、冬場もカヌーボロや水難救助訓練等の利用が検討されています。ちなみに観客席は五輪大会時のみの仮設で1万5千席。大会後の維持管理費はまだ示されていませんが、都民の税金が使われることを考えれば、情報公開とともに有益な利用を検討してもらいたいものです。

その他、葛西臨海公園の第一駐車場の一部を5階建ての立体駐車場(800台から900台ほど)にすることも決まっています。

来年度から始まる工事にあたっては隣接の貴重な自然を傷めないよう、景観を損ねないよう、また地域の住環境を脅かさないように、細心の注意と説明を求めていかなければなりません。(奈良 由貴)